

次世代に信頼と夢をつなごう

第15回役員会開催報告

じていることの現れであるのかもしれない。

数々の厳しい状況の中、らでいっしゅぼーやは15周年を迎え、今年は16年目に突入しました。らでいっしゅぼーやがこれまで推進してきた「農産5原則」に象徴される「生産基準」の取り組み、ならびに「顔の見える関係」に象徴される「情報公開」の姿勢や、様々な取り組みは社会に評価され、堅調な伸びを示しています。新しい体制のRadixの会も4年目、らでいっしゅぼーやの将来ビジョンへの理解が広がるとともに、会の活動にかかわる会員の数も伸びて、活動の全体像への理解も深まっています。

こうして迎える新年度。年度末には2回目の総会、役員改選の期が迫っています。私たちはこの取り組みを、全力をあげて、内外共に認知されるしっかりとした取り組みに仕上げ、次の世代に継承していきましょう。

■2003年度活動方針全体

2003年度、Radixの会は各会員が生産・製造し、消費者に提供していく商品が、環境保全型生産基準に則り、かつ生産物・製品としての品質が向上していくための施策（技術向上）を総合的に推進する。また、こうした会の活動を拡大する施策（相互交流）（情報発信）を推進する。

〔1〕技術向上：「ゆるぎない信頼」。

各専門部会において、技術向上を目的とする活動をさらに推進する

- ①品質や生産性に関する技術をより高める
- ②トレーサビリティの精度をより高める
- ③生産、製造の管理手法をこれまで通り学び、磨く
- ④らでいっしゅぼーや「基準」を共に高め、広げる

- ⑤商品開発のアイデアや活力を養う場をつくる。

〔2〕相互交流と情報発信：「ほっとする楽しい安心」。

交流部会において、会員の全員が主体的に関わり、多面的な交流を推進する

- ⑥食べる人に交流の場を提供する
- ⑦食の文化や伝統、地域性を見直し、それぞれの地域に見出す。
- ⑧食べもののことを伝える。
- ⑨活動を広く伝える。
- ⑩作り手同士や、らでいっしゅぼーや相互の交流を深める。

〔3〕取り組みの継承：「わかりやすく参加しやすい仕組み」

事務局活動として、会全体の取り組みとして、各部会活動を含めすべてが十全に機能し得る人的バックアップ体制を担保し次期体制に継承する

- ⑪会費や会の制度を見直す
- ⑫らでいっしゅぼーやを学ぶ
- ⑬相互扶助を継承・担保する。

■2003年度活動方針各部会活動

〔1〕農産部会

- ①部会運営：地域ブロックの機能を高め、農産部とのより緊密の連携を図り、らでいっしゅぼーや基準と生産者自主基準の両輪の価値を、内外に積極的に伝えていく。
- ②集会等：農産部との目標の共有を軸に、多様性（技術向上、地域性を見直し、農家経営の担い手としての女性と若手の育成など）と豊かさを兼ね備えた場をつくる。技術向上の分野での主体となった小祝氏との契約関係をより強化する。
- ③研究調査等：農産管理課との協力のなかで、資材の使用・農薬の使用について、実用的な結論を導き

出す。新たな取り組みとして、地域に根ざした在来種、伝統野菜の情報、ノウハウの調査を進め、国内随一、国内初の情報データベースを構築する。このために各地の種苗会社、試験研究機関、関連団体などとの情報共有を進める。

- ④補助支援等：機器購入助成3年目にして基本的なインフラが整った中、改めて生産者が必要としている助成を形にする。引き続き各ブロック、生産者ごとの自主的な勉強会を支援する（農産部会は先月の段階でこの活動の詳細スケジュールがまとまっています）。より広範囲のコンサルティングの一環として、各集会の場に第三者コンサルを派遣する。海外視察研修を支援する。

〔2〕畜産部会

- ①部会運営：品質や生産性に関する技術向上やトレーサビリティを追求し、製造の管理手法をこれまで通り学び、磨くことを前提とし、商品部とのより緊密な連携のなかで、国産かつオーガニックをテーマとした活動を具体化する。
- ②集会等：らでいっしゅぼーや基準、有機畜産、テーマ商品（産地）の3点を取り組みとして上半期中に共有化する。実質的なノウハウとして、信頼できる第三者をコンサルとして招き、本質的な意味での「国産オーガニック」の先進事例を具体化すると共に、商品部と開発テーマも共有していく。
- ③研究調査等：「国産オーガニック」の先進事例を具体化するための取り組みを2段階に分けて捉え、第一に海外オーガニック飼料の輸入具体化のための調査活動を至急構築する。第二に当時進行として、テーマ商品（産地）を核とした各畜